

川崎市立中学校の部活動に係る懇談会開催運営等要綱

(令和5年11月21日付け 5川教健第990号)

(趣旨)

第1条 この要綱は、川崎市立中学校の部活動に係る懇談会（以下「懇談会」という。）の運営等に関し、必要な事項を定めるものとする。

(意見の聴取)

第2条 川崎市教育委員会は、次に掲げる事項について、懇談会の委員の意見を求める。

- (1) 部活動の実態、活動方針、今後の方向性に関すること。
- (2) 休日の部活動の地域移行に関すること。
- (3) その他必要な事項に関すること。

(委員)

第3条 教育長は、次に掲げる者に懇談会の委員の就任を依頼する。

- (1) スポーツ又は文化芸術に係る知見を有する者
- (2) スポーツ又は文化芸術に係る団体の役職員
- (3) 保護者を代表する者
- (4) 市立中学校を代表する者
- (5) その他教育長が必要と認める者

2 委員の任期は、就任した日から当該日の属する年度の末日までとする。ただし、再任を妨げない。

3 欠員が生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(関係者の出席)

第4条 教育長が必要があると認めるときは、関係者を懇談会に招集し、意見又は説明を聴くことができる。

(庶務)

第5条 懇談会の庶務は、教育委員会事務局学校教育部健康教育課において処理する。

附 則

この要綱は、令和5年11月21日から施行する。

川崎市立中学校の部活動に係る懇談会 委員名簿

氏名	所属
岩井沢 美穂	川崎市PTA連絡協議会（副会長）
和 秀俊	田園調布学園大学（人間福祉学部教授）
黒田 学	川崎吹奏楽連盟（理事長）
小長井 大資	神奈川県職場・一般吹奏楽連盟（理事長）
齋藤 実	専修大学（文学部教授）
田中 眞砂美	神奈川県中学校文化連盟（地区長）
辻 敏明	川崎市中学校体育連盟（副会長）
中山 紳一	川崎市スポーツ協会（会長）
藤田 千史	(株)プレルーディオ（ディレクター）
望月 明弘	川崎市文化財団（事務局長）
森島 烈	川崎市立大師中学校長

(敬称略 五十音順)

令和5年度 第1回 川崎市立中学校の部活動に係る懇談会摘録

- 1 開催日時 令和5年11月28日（火）午後6時30分～午後8時15分
- 2 開催場所 高津市民館12階 第6会議室
- 3 出席者 委員 岩井沢委員、和委員、黒田委員、小長井委員、齋藤委員（オンライン参加）、田中委員、辻委員、中山委員、藤田委員（オンライン参加）、森島委員
事務局 小澤学校教育部長、小竹健康教育課担当課長、里見健康教育課指導主事、佐原健康教育課担当係長、川里健康教育課担当係長、鈴木健康教育課職員
- 4 次第
 - 1 開会
 - 2 懇談会の目的
 - 3 委員紹介
 - 4 内容
 - (1) 国の動向と部活動の意義、他都市の状況（公開）
 - (2) 本市の部活動の現状（公開）
 - (3) 本市のこれまでの取組（公開）
 - (4) 本市における今後の進め方（公開）
 - (5) その他（公開）
 - 5 次回の予定
- 5 傍聴者 0人
- 6 内容

小澤学校教育 部長 司 会	<p><挨拶></p> <p><資料の確認と懇談会の目的について説明></p> <p><各委員から自己紹介></p> <p><事務局から自己紹介></p> <p><事務局より資料3に基づき説明></p>
中山委員	<p>先々週、全国の政令指定都市のスポーツ協会の会議に出席しましたが、「地域移行」が大きなテーマになっており、各都市の報告を受けて、川崎市は取組が早い方だと感じました。</p> <p>課題としては、合同部活動や活動場所の問題、指導者の確保、民間活用に係る費用や予算の問題、といった事が挙げられ、仕組みづくりにどこの都市も悩んでいたところです。</p>
事務局	<p>これからの部活動を検討していくにあたり、競技団体が加盟している協会との連携は大事と考えております。課題がまさに、中山委員の発言された項目</p>

	<p>だと考えていて、できることとできないことを整理する必要があると思います。場所については、学校で活動できるのが一番よいが、(特に校舎内を使う)文化部の活動場所については大きな課題と捉えています。</p>
中山委員	<p>スポーツ協会は41の加盟団体から成り、それぞれに指導者もいるが、学校教育での指導については未知数です。そういった意味でも指導者の育成は課題に感じています。</p>
和委員	<p>地域スポーツの研究の領域では最近、「部活動の地域移行は難しいが、部活動そのものを考える、いいきっかけになる」といった見解が強くあります。また、資料22ページについて、「地域移行」ありきではなく、1つの選択肢と位置づけて部活動そのものを検討していくということで非常に楽しみに感じています。</p>
事務局	<p>全国的に「地域移行」が取り上げられているが、掛川市が少子化によって地域移行を実施せざるを得ないように、個々の地域事情もあります。川崎市や横浜市のような大都市では、生徒数も減っておらず、それほどひっ迫した状況ではないですが、今の形の永続となると難しいので、将来について検討をしておくべきだと思います。部活動は非常に大きな課題であり、じっくり時間をかけて川崎市としての方向性をまとめる必要を感じています。</p>
辻委員	<p>「地域移行」の実現は全市の部活動の受け皿の問題から難しいと思っています。先生方の中にも、部活動を持ちたくない先生と部活動に力を注ぐ先生とさまざまな思いがありますが、川崎市としての活動の形を考えると、やはり先生方の力が必要になるため、学校教育と切り離すのは危険だと思います。基本的には、これまでの学校部活動を継続し、その中に指導者をうまく派遣していく必要がある、と思っています。</p> <p>また、昨年度から、県や全国などの上位大会に繋がる大会は、地域のクラブや道場の参加も可能となりましたが、例えば多数の参加で大会期間が延びる可能性や、クラブメンバーの在籍地に制限がないことで川崎の生徒が上位大会に行けなくなるといった課題も考えられました。今年度の川崎ブロック大会においては新体操・柔道・剣道・ハンドボール・バドミントンでクラブチームの参加がありましたが、スムーズに大会を運営することができました。今後の課題はたくさんありますが、まずは各競技の協会や連盟と専門部の関係構築が重要と思っています。</p>
事務局	<p>コンクールの実施状況の変化などについて御意見をお聞かせください。</p>
黒田委員	<p>吹奏楽においても、学校の合同バンドもコンクール等への参加が可能となりましたが、活動場所や費用、楽器等の課題があり、現実問題としてはハードルが高いです。特に都市部においてハードルが高いと感じており、逆に地方の市町村の方が(クラブバンドを)作りやすいと思います。川崎市では、少人数とはいえまだ学校単独でバンドを組めるため地域移行によるクラブバン</p>

	<p>トは難しいですが、大会参加はルール上可能です。</p>
事務局	<p>小長井委員、社会人の吹奏楽活動について、地元の中学校で教える等、部活動を支える可能性についてお聞かせください。</p>
小長井委員	<p>積極的に御協力できたらと思います。吹奏楽の大会は、中学校単独の学校しか参加できなかったのが、神奈川県では合同部活動としての参加も認められるようになりました。地域バンドも、中学部門として参加することができます。地域移行においては、「活動場所」の課題が一番大変だと思います。学校を使用できればいいですが、市民館の音楽室などを想定する場合、現在でも社会人団体が練習会場の確保に苦慮しているので、厳しいかなと思います。</p>
事務局	<p>田中委員、中学校の文化部の取組などについて御意見をお聞かせください。</p>
田中委員	<p>中学校の文化部活動の取組については、西中原中学校では、演劇部で地域移行の試行を実施していますが、学校を活動場所とすることから、教員がついていないと心配です。</p> <p>県中学校文化連盟では、技術家庭科のものづくり、読書感想文、新聞コンクール、放送アナウンスコンテストや、委員会活動にまで多岐にわたり、そういった取組の成果が文化祭で子どもたちに共有されています。文化部も鉄道研究、将棋、鉄道研究、家庭科部など多岐に渡る活動を行っており、先生方は、それを大事にしたいと思っています。</p>
事務局	<p>文化部も多様な活動があるのですね。地域資源で考えると、華道や茶道、将棋などで活躍している方々はたくさんいるはずで、文化部も今後、地域に関わってもらえる一つの切り口として考えていけるかもしれません。</p>
藤田委員	<p>アートセンターでワークショップ等を運営する立場から意見いたしますが、演劇は、教えてもらってできるものではなく、学校ごとにいろいろなやり方があります。自由にできる反面、画一的な指導が難しいです。地域では演劇の活動場所が少なく、習い事としてダンス、歌を教わることができるが、総合芸術のミュージカルや演劇となると難しく、そういう意味で非常に貴重な機会だと考えています。中には保健室登校だった子が演劇活動を通じて復帰し、最終的に大学に進学したケースもあり、そういう意味では子どもが自己表現できる場所を持つてるのは、非常によいことと思います。</p> <p>また、プロの劇団は、俳優としてのスキルは教えられても、子どもたちに必要な、演劇を通して皆が仲良くなるとか、基本的な発声の方法などは、教えられないといった難しさがあると思います。</p>
岩井沢委員	<p>保護者の立場として聞きたいのは、周りの父母からもこういう話題について「やるんだろう」という話は挙がっておりますが、川崎市としてこの「地域移行」はすぐにでも取り入れるのでしょうか。</p>

事務局	<p>今すぐではないと思います。少子化の課題は川崎市では当面先であり、学校もしっかり部活動を運営できる状況にあるので、学校の部活動は基本的に継続とし、ただ、果たして今の形がよいのか、様々な課題も出てきていますので、これから皆さんとともに考えていきたいと思います。</p>
岩井沢委員	<p>「地域移行」の話は一人歩きしているところもあっていろいろな不安な意見が出ています。</p> <p>実際の部活動では、活動に係る費用も保護者にとっては負担となっているので、どのくらい金額がかかるのかを明確にしてほしいと思います。</p> <p>また、大会以外の練習試合の多さや、大会の遠征費、送迎や応援など保護者負担が大きいと感じています。部活動は、何のためにやるものなのかという共通認識をもう少し考えられたらと思います。大会で賞をもらう事も大事ですが、そこまで行くプロセスをどれだけ楽しめているか、充実しているか、ということ子ども目線でもう少し考えてあげたいです。</p>
事務局	<p>種目によって、どうしても活動にかかる費用などは異なってきます。大きな大会の遠征費については、「サポート奨励金」の制度があり、少しでも負担軽減できるよう支援していきたいと思います。また、子どもの目線はとても大事なことだと思います。</p> <p>続いて、森島先生に、教員の負担軽減、更なる適正化、学校現場で既に取り組まれていることなどについて、御紹介と御意見を伺えればと思います。</p>
森島委員	<p>大会の数が昔に比べてかなり多いので、何とかできないかなと考えており、先日、全専門部の部長、全学校の評議員とまずは市のガイドラインをきちんと守り、上位大会に繋がるものはやむを得ないが、大会参加の見直しを検討することを議論しました。</p> <p>部活動を通して何を教えるのが大切な所と思っており、活動の過程で色々な事を学ぶものが部活動であると思います。</p> <p>働き方改革の観点で部活動が悪者にされがちですが、全ての要素を一まとめで考えるのは難しいので、まずは川崎市の状況も踏まえた上で、10年後の姿を考えていく必要があると思います。</p>
事務局	<p>部活動については、皆で声を出し合って、じっくり時間をかけて検討していきたいと思います。</p> <p>齋藤委員は、スポーツ推進審議会の会長も務められておりますが、スポーツを中心に文化も絡めて、今後どういう視点で部活動の検討を進めていけばよいかの御意見をいただきたいと思います。</p>
齋藤委員	<p>私も部活動で育った人間ですので、部活動の形は維持していきたいと思いますが、その方法としては「地域が指導者を派遣して部活動をささえる」事と、「部活動の地域連携」、「部活動の地域移行」のステージが挙げられると思います。川崎市には、中学生が約3万人いますが、これは地域にとって非</p>

	<p>常に価値あることだと思しますので、この財産を生かし、地域が活性化されるような「新しい川崎のスポーツ文化」に辿り着けるような議論ができれば、と思います。</p> <p>何卒よろしくお願いいたします。</p> <p>事務局</p> <p>皆さんから、今後の部活動を考えていく上で色々とヒントをいただくことができました。</p> <p>司会</p> <p>以上をもちまして、第1回川崎市立中学校の部活動に係る懇談会を終了とさせていただきます。ありがとうございました。</p>
--	---